碁太平記
白石新作
文政
寅春
前
へ遠13
1878

へ13
1878

四方門垣大人
芍藥亭大人
桑楊庵大人
六樹園大人

狂歌相撲四本柱 全二冊

此狂哥集八當時世に秀さる四家の大人は判をとられしを四巻を意雅とる事を意の歌を撰びて此ろを此ろを好き事びの人人の為ならん侍人

鈍亭大人撰

狂歌名画五十題 全二冊

序文 蜀山先生 書 鵬齋先生
跋文 六樹園先生 書 星池先生

此撰八四巻まで狂歌の狂歌を画とりて画と狂歌の文晁先生詩画を画とる人の画を画と狂歌の江戸八さうなる江戸名ある先生の

此ちハ大ら名我拙作の役
せるぶとおのく一首ひく角力ら名位
の種くひき判のてぐらきと礼
ら見てるちておのーろき冊ふ

六樹園翁撰
忠臣藏
曽我物語

狂歌合 全一冊

古の年来夜の ちより 遠く 雲山中尚
此 を を ゆ る 者 を 西 方 見 の 狂 を 撰 い

本材木町一丁目
春宗軒發版

其石大平記白石新の津瑞蹟を紀上太郎烏亭焉馬を始。容揚流書よ多り總く作者五人おのく錦心をとめ江く都向を新は。意く庫口紙のつて文句を奇ふ多ゆ。且後太夫甘更高くの乃曲阿。たのく青遠ゆ始を挑しーうば當時流行ちて鞠しー。

書舗春宗軒。正本を梓行してよりはのさ。今に傳ひて尚盛なり。此繪冊子ふるや。正本は要へ摘簡約して五冊とし。閲板ちてるとまふ年の年ゆう。板行既ふ磨滅して殆ん見るべ。仍之再び五渡亭ふ墨を需て。今茲鐫板更ふ。世に普くするとゆ紙あるべにかうく之ふ。

寛政七乙卯年正月開鐫
文政三庚辰年孟春再板

本町庵三馬叙

晋米齋正粒書

大序
左
右

白石
二

白石
三

主上

楠

二段目
兵
合

三段目

四段目

四段目の文句

五段目

六
七
さ
一

七
四

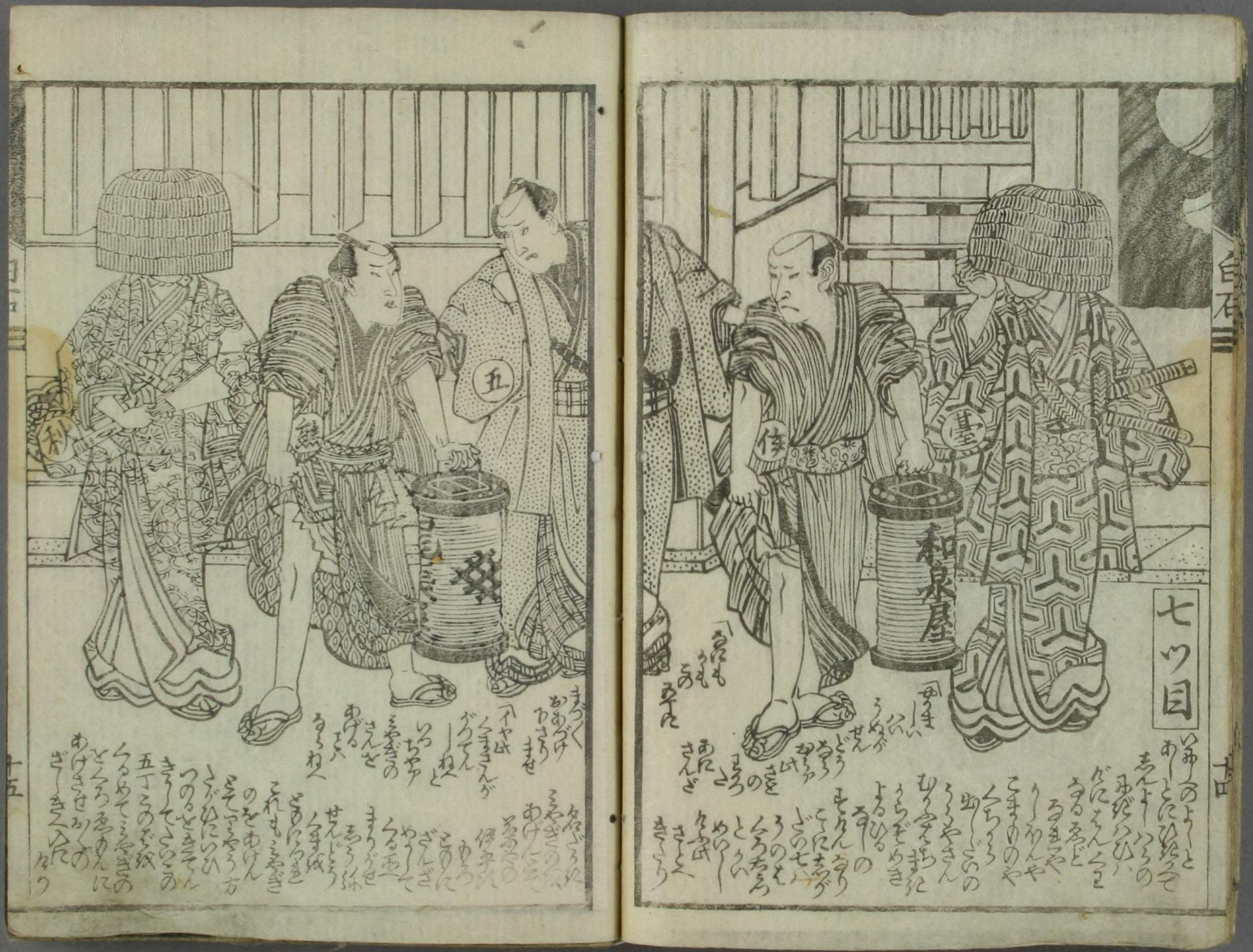
兵
さ

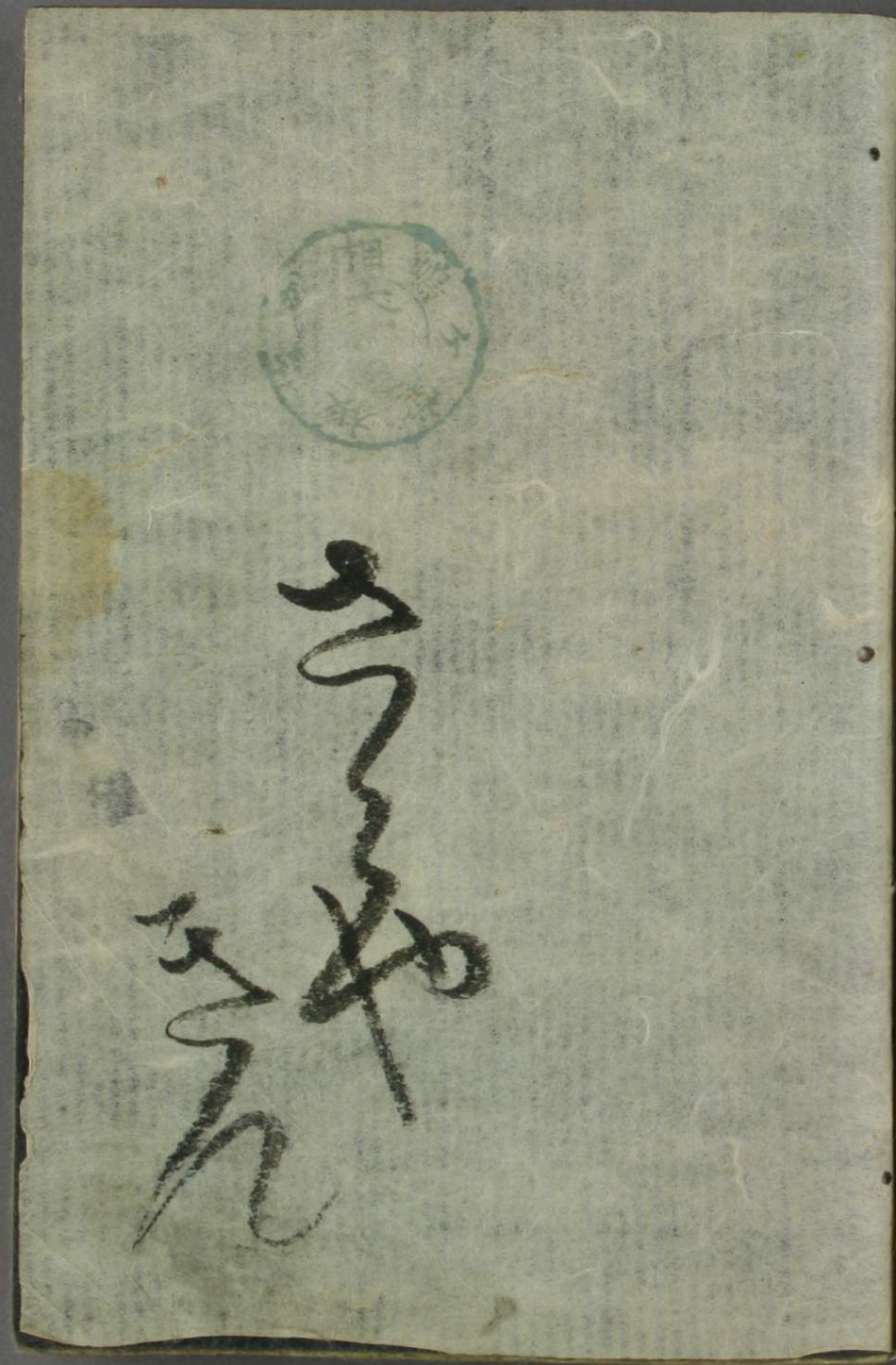
谷
七

六ノ目

見番
休所

納
泉楼泉寿
江戸町壹丁目
納
泉楼泉寿


七ツ目
和泉屋
侍
臺
五
秋
白石三
十四
十五



一雄齋
國貞
西宮板

相模人文大学図書館

つをもの町
さうや

「コリヤ
みの

七ツ目大切
五

白石三
み
せ
つづく

白石三
九二
九一

十段目

十段目中

大切
千
左
右
丑
寅
巳
午
未
申
酉
戌
亥
子

一雄齋國貞画